薔薇便り

No.262
2025年 7･8･9月号

目　次

事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～2
春のばら展の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
世界バラ会議とバラ園めぐりツアーに参加して・・・4
姫野ばら園とバラ園めぐりツアーに参加して・・・・5～6
ばら会と私・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
花庭訪問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
人間とカビは同じグループ？・・・・・・・・・・・・9～12
シュートピンチについて・・・・・・・・・・・・・・・13
防除についてⅡ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14～16
月々の手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

事務局だより

第３回ばら教室

日時：８月１７日（日）１３時３０分～１５時３０分頃まで
場所：熊本市動植物園　緑の相談所２階　講習室
　　熊本市東区健軍 5-14-2　TEL096-368-7321
※植物園入口（西口）から入らずに左の緑の相談所入口から入って２階です。
　入園料は不要です。駐車場は駐車料 200 円が必要です。

内容：仕立て方、秋の剪定、病害虫防除、その他

第４回ばら教室

日時：９月１４日（日）１３時３０分～１５時３０分頃まで
場所：熊本市動植物園　緑の相談所２階　講習室
　　熊本市東区健軍 5-14-2　TEL096-368-7321
※植物園入口（西口）から入らずに左の緑の相談所入口から入って２階です。
　入園料は不要です。駐車場は駐車料 200 円が必要です。

内容：秋の剪定、開花までの病害虫防除、その他

【注意】ばら教室にはお配りしています「ばらの手入れ」をお持ちください。
　　新入会員の方で「ばらの手入れ」をお持ちでない方には会場でお渡しします。

●動植物園「緑の相談所」

ベラボンの注文受付

ベラボンとは、ヤシの実のスポンジ繊維を細かく切断して、あく抜きをした園芸資材です。ヤシの実の繊維は亀の子タワシに使用されていて腐りにくい繊維です。通気性、保水性に優れています。鉢植え用土に赤玉土と１：１で混合して使用します。

ＪＡ熊本うきグリーセンター宇土に注文しますが、業務用１００リットル袋を４袋以上注文しないと送料が掛かりますので、熊本ばら会で共同購入します。
現在１００リットル１袋４１００円ほどですが価格は変動します。

ご希望の方は事務局へＥメールや(正村)携帯電話へショートメール、ＬＩＮＥ熊本ばら会アカウントなどでお知らせ下さい。連絡先は最終ページに記載しています。

４袋以上の注文が集まってからの発注となりますので、お渡しできるまで日数が掛かりますことをご承知ください。第３回ばら教室、第４回ばら教室でお渡しします。

Mサイズ(5ミリ)

年度末までの行事など

- ■ 会報発行　９月末（263 号）、１２月末（264 号）
- ■ 技術指導部講習　１０月２６（日）　動植物園 緑の相談所 講習室
- ■ 秋のばら展　１０月３１日（金）～１１月２日（日）
- ■ 秋の日帰りツアー　１１月１日（土）　九州ばらまつりとバラ園めぐり
- ■ 秋の懇親会(昼食会)　１１月１６日（日）　アークホテル熊本城前
- ■ 第５回ばら教室　１１月３０日（日）　動植物園 緑の相談所 講習室
- ■ 第６回ばら教室　２０２６年１月２５日（日）午後：接木教室
  動植物園 緑の相談所 講習室
- ■ 第７回ばら教室　２０２６年２月１日（日）午前：剪定教室
  動植物園 緑の相談所 講習室とバラ園

新入会員紹介　※新年度の入会者（順不同）

山腰恵子 様　吉見恵子 様　田中和子 様　横山千秋 様　赤星文恵 様

南 健剛 様　湯野 豊 様

第１１９回春のばら展の報告

今年は大阪で万博が開催され、広島県福山市で世界バラ会議が開催されました。
そこで、春のばら展は大阪万博と世界バラ会議を記念して「ばらの万博」をタイトルに世界バラ会議で選ばれた殿堂入りのバラを展示することにしました。
正面の特別展示台などに殿堂入りのバラを展示して「ばらの万博」を表現しました。
アンケートには、「殿堂入りしたバラの作出国の品種名が興味深く素晴らしいです」とか「香りが良い」「癒される」「室内でゆっくり鑑賞できてよかった」など、沢山の感想を頂きました。
今回も会員の皆様のご協力ですばらしい春のばら展を開催することができました。
自家用車で鉢植えを運んで頂いたり、切り花、アレンジ花を展示頂いたり、また設営や撤収をお手伝い頂いたり、ご協力ありがとうございました。

世界バラ会議・福山大会
「Rose Expo FUKUYAMA 2025」と
バラ園めぐりツアーに参加して

酒井　美津子

　瀬戸内地方はバラが真っ盛り・・・そんな魅力的な情報に誘われツアーに参加する事に！新幹線を降り立った福山駅　駅前の花壇には色とりどりのバラが植えられていて甘い香りが漂っている・・・よく見掛ける駅前の風景とは何かが違う？
穏やかで落ち着いたこの街の雰囲気は何処から来るんだろう？

　バスの車窓から見えるどの花壇のバラも混植など全くなく一本一本広いスペースにゆったりと植えられています。風通しを良くして病害虫を防ぐ・・・バラ栽培の基本を見たような気がします。

　市内の至る所に咲き誇るバラは、戦災で荒廃した街に潤いを与えて、人々の心の安らぎを取り戻そうと、現在の「ばら公園」付近の住民がバラ苗千本を植えたのが「ばらのまち福山」の始まりだそうです。６０年前のお話です。（ウエブより）

落ち着きがある町並みは歴史がなせるわざかも知れませんね。

　「ばら公園」のメイン会場では三年に一度の「殿堂入りのバラ」を決める「国際会議」や「バラコンテスト」も同時に開催されていました。

　コンテスト会場では「熊本ばら会」の福島部長が外国の方々と肩を並べ真剣に審査されていました。その姿は頼もしく誇らしい気持ちになりました(笑)。
この特別な空間を体験できたことは私にとって貴重な思い出となりました。
二日目は四国へと足を延ばして幾つかのバラ園巡り。
美しい景色を眺めながら友との語らいは心穏やかな旅となりました。

山梨・姫野ばら園八ヶ岳農場とバラ園めぐりツアーに参加して

白石　英子

5月31日から6月2日の行程で山梨へ行ってきました。出発日熊本の天気は晴れ、羽田に着くや雨模様。福岡バラ会4名の方と羽田で合流し総勢25名で行動しました。

海老名サービスエリアでの昼食は菱刈チーフより名物5選を教えて頂きそれぞれ好きなものを食べて満足しました。(炙り豚丼・えびえび焼き・メロンパン・鯵唐揚げ・東京バナナソフトクリーム)

＜目的地＞河口湖・音楽と森の美術館

バラは蕾も多くまだまだこれから見頃といった所でした。小雨の中、残雪の富士山が目の前に現れ感動しました。代わる代わる写真を撮り、雲もかかっているので画像を拡大しないと富士山ってわからないところも面白いです。サルバドール・ダリの「レースをまとったサイ」のブロンズ像（時価8億円）も見れました。アンティークオルゴールの中でディスク43㎝の展示では係の人に音を聞かせてもらい曲はカノンで深みのある音色が心に響きました。

レースをまとったサイ

２日目　お天気　晴れ＜目的地１＞ハイジの村

日本一長いバラの回廊は全長230mもあるつるバラのトンネルです。

ハイジの村

愛犬モデルの写真家も多くいました。1時間半で全部回れるか広い敷地のコーナーを地図を見ながら足早に回りました。

世界のバラのステージは国ごとにまとまって展示されていました。

＜目的地２＞

高遠しんわの丘ローズガーデン

標高　830ｍ　270　種　3000　株　蕾は全体の半分くらいでその蕾は生

き生きととても元気です。虫も少なく良く手入れされており、色鮮やかでどのバラも大きく元気に咲いています。ドーム状の休憩所は5 株のアンジェラで仕立ててあり外は見事に咲き、中に入って見上げるとこちらに顔を出しているバラもあって素敵です。バラで満たされた１日でした。

アンジェラのドーム

３日目　お天気晴れ→熊本は雨
＜目的地＞姫野ばら園
八ヶ岳農場

初めてバラ園農場を訪れました。代表の姫野由紀さんより「ここは田んぼの場所にあり雨だったら長靴が必要」と言われましたが晴れていて良かったです。
長ハウスは 10 棟位あり中にはギッシリ鉢に入ったバラが並び外にも鉢がズラリ。1 鉢ずつきちんと名前の表示がありました。
事前にカタログをもらっていて目星のバラと実物を見てトゲが多すぎと感じたり、実物に目が釘付けになったり、記念に注文する方も多く 2 時間農場を満喫しました。

姫野ばら園ハウスの中

企画して下さった正村さんに感謝します。ご入院中で一緒に行けず残念でした。
また、チーフ菱刈さんにはチケットの手配や人数確認。皆をまとめて下さってありがとうございました。同行した皆さま楽しい思い出をありがとうございました。
また、次の企画もご一緒しましょう。

はい！チーズ‼ 姫野ばら園八ヶ岳農場にて

ばら会と私

No.47　曽我 俊恵

常日頃から、ばら会の方々の慈しみ深さや企画・実行力の高さ等に深く尊敬し感謝しています。

そもそも草花の育成とは無縁の生活を送っていた私が、なぜ薔薇と共に心豊かな生活をのんびり・ゆったり過ごせるようになったのかについて記載致します。

２０１２年５月某日バス乗車中に「ハウステンボス薔薇まつり」のパンフレットが私に「ぜひ遊びにいらっしゃいませ」と語りかけているような気がして、帰宅後、直ぐにハウステンボスへ直行し、そこで偶然、小山内健先生の講話を聴く機会に恵まれました。その時先生は「薔薇は本来、河原で自生出来るたくましい樹木、日光と風が当たるような配地、間隔は1.5m以上、１０鉢以下の管理を心掛けて薔薇と共に心豊かにお暮し下さい」と教えて下さいました以来すっかり「疲れない、枯らさない、沢山咲かせる」が合言葉の小山内先生ファンになり京阪園芸のセミナーへ行き全国に薔薇友も沢山出来ました。

またハウステンボスの魅力に魅入られ毎年５月に訪問していました。ふとその時、今は歩いて楽しく旅行できる高齢の親達も、やがて歩けなくなる時のために「庭がハウステンボス風になったらいいな」とぼんやりと思いました。ただその時は我が家には薔薇を植える余地がありませんでした。ですが毎晩就寝前に図鑑を読み漁り、色・香り・樹勢を夢想する生活が続いていました。

そんな時、鶴屋東館のばら展に行き、その場でばら会へ入会しました。有益な情報が満載の薔薇の会報や薔薇ツアーの内容の素晴らしさにいつも感動しながら拝読しています。

ばら会の方々との思い出の中で一番印象深いものは、2016 年の接ぎ木教室での出来事です。近しい身内の不幸が重なり急遽欠席致しました。それにも関わらず秋に、ある方が希望していた接ぎ木苗が初めて花開くときに我が家まで持って来て下さったのです。こんなに愛情と慈しみ深い方々が世の中にいらっしゃるのだということに感激し感謝の気持ちと感動の涙が沢山あふれてきました。

また庭もひょんなことから２０坪ほど広がり、荒れ地から開墾し今では５月には爽やかな薔薇の香りが芳しい輝きの庭になりました。感謝の気持ちで一杯です。

かていほうもん 花庭訪問

フランソワズジュランビルに
見惚れる町内の皆さん

帯山の住宅街にひときわ輝くバラのお庭。

ばら展直後の 5 月 5 日、「今が 1 番綺麗かも」とのお返事に立山裕輝さん、洋子さんのお宅を訪問させて頂きました。

着いて間もなく、後方から自転車部隊の賑やかな声がします。ご近所さんのお仲間が 10 人ほどでしょうか、私と同じようにバラの美しさに誘われて観にいらしたのでした。前触れもなく気軽に来れる、そして自然に受け入れる、ご近所さんと立山さんの良い関係が垣間見れるひと時でした。

先ず、出迎えてくれたバラは玄関から駐車場にかけて見事に誘引されたフランソワズジュランビル。上品な色合いで花の姿が美しく花付きも素晴らしい品種です

下に控える鉢植えのバラに影響のない、耐病性のあるつるバラを探していたところ、ばら会の先人に「フランソワズジュランビルが良いのでは？」とアドバイスを受けたとの事でした。

それから 15 年経ち今では立山家のシンボルローズとなったようです。他につるバラはグランモゴール、ジュリア、ロココ等 7 品種が露地栽培、鉢植えが 65 鉢ほどでしょうか。

バラを始められたきっかけをお尋ねすると、「バラは 1 輪でも美しい、そしてバラ園などに集まるとさらにすばらしい、さらにさらにバラは人と人を繋いでくれる喜びがある」と。もう一つは「交配を学んで新種を作りたかった」とか。その思いは今でも深く持ち続けていらっしゃるようでした。いつの日か叶う事を心から願っています。

バラとの付き合いも 30 年。社交ダンスと共にバラ栽培に時間を注がれた日々。

かつてはばら展でもたくさんの鉢を出品して頂きました。賛助会員（家族会員）の洋子さんも油絵等、多くの趣味を持たれながら今はミニバラ栽培を担当していらっしゃるとのお話でした。

立山さんの好きなバラは「フロージン 82」と「ホワイトクリスマス」。洋子さんは「ヨハンシュトラウス」と「オ―ドリー・ヘプバーン」だそうです。

83 歳とおっしゃる立山さんはさすが社交ダンスの先生、背筋がまっすぐ伸びてバラの手入れも難なくこなされ、今年のバラの出来は今までの栽培歴ベスト 2 になるかなとにっこりされました。

1 日でも長くバラを育てていきたい、それが今後の目標だそうです。

私たち皆の願いでもあります。この季節、作業は大変ですが立山さんを見習って頑張っていきましょう！

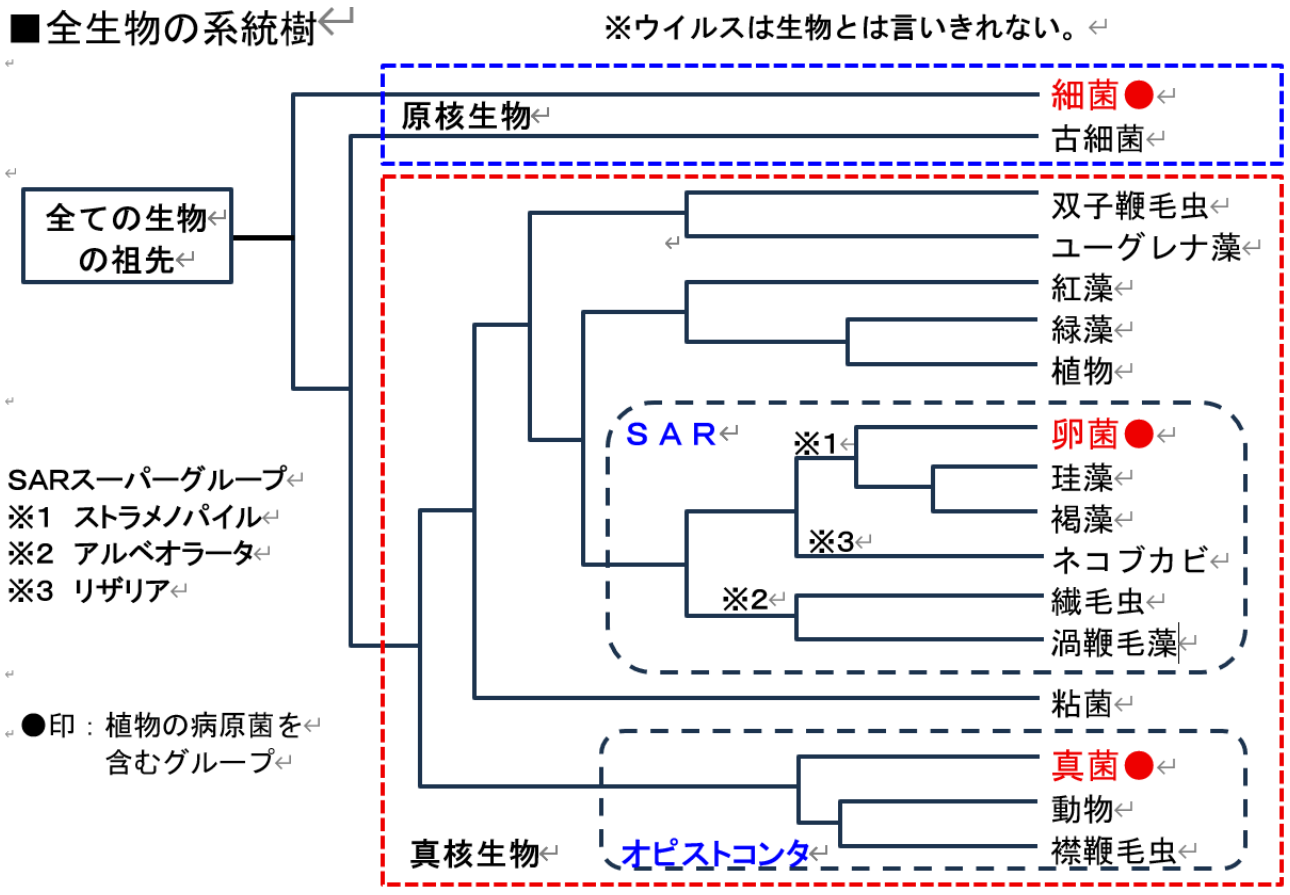
文　やじ・きた

人間とカビは同じグループ？

正村　正輝

２年ほど前、ＮＨＫのヒューマニエンスという番組で「“真菌”地球を創造する分解者」という放送がありました。放送の説明は「地球を代表する高度な生命体、それはヒトではなく、カビやキノコなどの「真菌」かもしれない。真菌は細胞構造がヒトや動物にそっくり。オスとメスで交配する仕組みを持ち、多様な遺伝子を持つように進化。他の生物に入り込み、宿主を操るものも現れている。そして真菌はヒトの体内にも入り込み、免疫強化に力を貸していることがわかってきた。新たな命の礎を生み出し、地球を創造する分解者「真菌」の知られざる戦略を妄想する。」というものでした。
真菌（しんきん）とはなにか？ バラの病原菌とはなにか？ について調べてみました。

一般的に微生物ということばが使われていますが、微生物は肉眼では見えないほどの小さな生き物の総称です。菌類や藻類、細菌など多くの生物が含まれます。畑の土１グラムほどには微生物が１００万種、数で２０億ほど生息しているということがサイエンス誌に報告されています。地球には私たち人間の数を遙かに上回る数の微生物が生息しており地球の真の覇者は微生物と言えます。（全生物の系統樹参照）



私たち人間を含む動物や微生物はどのような関係なのでしょうか。
地球が誕生して４６億年、４０億年前には海ができていたとのことです。その海の中の熱水噴出孔で単細胞生物が誕生したのではないかと言われています。４５億年ほど前には光合成する細菌（シアノバクテリア）が生まれて光合成で酸素がつくられるようになりま

した。その後スノーボールアースといわれる全地球凍結が３度あって、生命は熱水噴出孔付近で生き延びてきたと言われています。５億年程前には増えた酸素によってオゾン層ができて有害な紫外線が遮られるようになったため、海の中から陸上に微生物や植物が上陸を始めたようです。４億８千万年前には昆虫のなどの節足動物が上陸を始め、３億８千万年前には肺を持った魚類などの脊椎動物も上陸を始めました。

全生物は、細胞の中に核膜に包まれた核を持つ「真核生物」と核膜を持たない「原核生物」に分かれています。ウイルスは細胞構造が無く生物とは言い切れないものです。

真核生物の中にオピストコンタ（後方鞭毛生物：こうほうべんもうせいぶつ）というグループがあります。オピストコンタとは動物の精子のように細胞の後ろ側にある１本の鞭毛を動かして前に進む細胞を持つ生物グループのことです。オピストコンタのグループには動物や真菌（カビ、酵母、キノコなど）が含まれます。

なんと！カビと人間は同じグループだったのです。

私たちの周りには目に見えない微生物がいて、人間や植物は微生物の脅威にさらされて、常に微生物と戦っているのです。周囲にはカビの胞子が沢山浮遊していて鼻から吸い込んでいますし、細菌も皮膚、鼻、口、体内などいたるところにいます。ウイルスも飛沫吸引や付着した物に手がふれて知らないうちに口や鼻から身体に入ってしまうこともあります。

カビや細菌、ウイルスが身体に入ったからといって病気にならないのは病原菌に対する免疫力や抵抗力があるからです。栄養不足やストレスなどで免疫力や抵抗力が落ちたときに病気に罹るのです。

人間が罹る病気は、圧倒的に細菌やウイルスによるものが多く、真菌による病気は白癬菌、カンジタ、アスペルギルスなど数える程しかありません。

植物の病害は人間とは逆に真菌（糸状菌）が多く、卵菌、細菌、ウイルスと続きます。植物の病原菌は真菌（糸状菌）が多いといっても、糸状菌の中で、バラ、リンゴ、イチゴ、キャベツ、トマト、ナスなど、それぞれの植物に対して感染できる糸状菌があるということです。バラにはバラに感染できる糸状菌があり、トマトにはトマトに感染できる糸状菌があり、バラに感染する糸状菌がトマトには感染できません。

糸状菌の殆どは植物に対して病害を起こさない菌で、土壌中の糸状菌（菌根菌）は根と共生して根が届かないところのリン酸分を根に届けたりします、また菌糸のネットワークで植物同士の情報伝達をするような働きをすることもあります。

■病原菌にはどのようなものがあるのか

植物の病原菌には以下のようなものがあります。その中にはバラに感染できる病原菌があります。

① 真菌：カビ、酵母、キノコなど。植物の病原菌は菌糸をつくる糸状菌が殆ど。
② 卵菌：菌類の一種、有性生殖に特殊な卵胞子をつくる菌
③ 細菌：細胞内に核をもたない原核生物
④ ウイルス：細胞構造がないため生物とは言い切れない。

■真菌（糸状菌）の病害　（タキイ種苗ＨＰから引用）

１ 黒星病病原菌は、「ディプロカルポン・ロサエ」という子のう菌類に属する糸状菌で、分生子層を葉の表面の表皮下に生じ、成熟して裂開すると多数の分生子が放出される。２０～２５℃が生育適温とされている。

露地栽培では普遍的に発生する最大の病害であるが施設栽培（屋根付栽培）では発生しない。
胞子が風に乗って飛んできて葉に付着して、葉の表面が濡れていると胞子が発芽、６～７時間以上濡れていると葉の表面から葉の内部に進入し感染する。
１週間くらいで病害が現れる。
葉に黒い点やシミができて、次々に他の葉に伝染していく。葉は次第に黄色くなって落葉し、葉が全て落葉し樹勢が落ちて枯れることもある。

２ うどんこ病

病原菌はノイバラに発生しやすい菌と園芸種に発生しやすい菌の２種類がある。
絶対寄生菌で、生きている宿主細胞の中でのみ増殖可能である。
うどんこ病原菌の本体は葉や茎の表面のみに存在し、増殖速度が非常に速い。
生育期間中に形成される分生子によって次々と伝播する。
夜間の低温（15～16℃）で高湿（99%）条件下と、昼間のやや高温（23～27℃）、低湿（40～70%）条件下でよく発病する。
気温30℃以上では発芽しないため夏季は発生が抑えられる。
葉の表面が濡れていると発芽困難なため露地栽培より施設栽培（屋根付栽培）で発生しやすい。

３ 灰色かび病

病原菌は「ボトリチスシネレア」という不完全菌類に属する糸状菌である。
胞子が風によって伝播する典型的な空気伝染性病害である。
花弁や葉、茎に発生する。
気温２０度前後で湿度が高い春先から梅雨にかけての時期と、秋から初冬にかけての時期で、雨が多いと多く発生する。
最初は水がしみたような淡褐色の病斑ができ、病斑が拡大するとそこが枯れ、やがて腐敗して灰色ないし灰褐色のカビに覆われる。花弁では白色、褐色などの小さな斑点が多数発生し、やがて灰色のカビが密生する。花を咲かせたまま放置すると、花がらに本病が多発し、圃場の菌密度を高め、秋期からの発生の伝染源となる。

４ 枝枯病・腐らん病

主に茎（枝）に発生する。枝枯病も腐らん病も糸状菌による病害で、茎が赤紫色～黒褐色に変色して、病斑が茎を取り巻くと、病斑の上部は枯死する。
病斑部には黒いぶつぶつ（病原菌の分生子殻）が認められる。
胞子が空気中に飛散して第一次伝染する。
また水滴などによる飛沫伝染が考えられる。
剪定や枝の傷の部分から感染する。苗木では剪定した枝先や接木の部分から発生することが多い。

■卵菌の病害

１　べと病

卵菌類に属する。
植物体内では菌糸の状態であるが、組織中に卵胞子をまれに形成する。分生子柄が葉裏の気孔から単生または叢生（そうせい）し､樹枝状に枝分かれをして､先端に卵形の分生子を形成する。
胞子が風に乗って飛んできて葉に付着して感染。
初夏や秋の気温が１６度以下で昼夜の温度差が激しく多湿の時期に発生する。
葉の病斑ははじめは小さな斑点である。やがて不整形の灰褐色または紫褐色のシミ状となる。葉脈で区切られた病斑も見られる。やがて葉は枯れて落葉し、木を枯らすこともある。

２　疫病

卵菌類の属する。
通常、植物体内では菌糸の状態であるが、組織中に卵胞子を形成し、水分があると卵形の遊走子のうを形成し、中から２本の鞭毛を有する遊走子を多数放出する。菌糸の生育温度は１０℃～３５℃、適温は２５℃前後である。
土壌伝染と水媒伝染があり、組織中に形成された卵胞子が土壌伝染し、遊走子が水中を遊泳して茎に到達して感染する。
多湿条件下で発生しやすい。
地際部や根が侵される。地際の枝が暗色の水浸状となり、地上部はしおれて枯死する。

■細菌の病害

１　根頭癌腫病

土壌細菌（アグロバクテリュウム・ツメファシェンス）土壌中に生存していて根の傷口などから進入して感染する。多くの植物に感染する。
温度０～３７度までは生育可能で、１４～３０度で良好に生育する。発症適温は２５～３４度。死滅温度は５１度。ｐＨ５．７～９．２の間で生育でき、最適ｐＨは７．３。
接ぎ木部分や根にコブができて、成長が悪くなって枯れることがある。
治ることはなく、バラ植物体に定着し、接ぎ木ナイフや剪定バサミからも感染を広げる。

■ウイルスの病害

１　モザイク病

プルヌスネクロティックリングスポットウイルスによって発病する。接ぎ木伝染するほか、アブラムシ、アザミウマ、コナジラミなどの吸汁害虫がウイルスを媒介する。剪定ハサミでも伝染する。葉にモザイク模様（濃淡のまだら模様）が現れるのが特徴。一度感染すると完治せず症状は進行していく。

シュートピンチについて

正村　正輝

第２回ばら教室でシュートピンチの説明をしましたが、シュートピンチは基本中の基本で、シュートピンチを習得して頂かないとバラの仕立てはできません。

１年前の会報２５８号でシュートピンチの説明をしていましたが今回も掲載します。

シュートとは新しく発生した柔らかい枝「新梢」（しんしょう）全般のことです。

株元から勢いよく伸びてきた新梢をベーサルシュート（ベイサルシュート）といい、枝の途中から伸びた新梢をサイドシュート（途中シュート）といいます。

花枝もシュートのひとつですが､花枝はステムといいます。

ピンチとは剪定のことです。

バラの仕立ての基本は、その年に新しく伸びたシュートをピンチを繰り返して枝を伸ばして充実した枝に仕立て、次の冬の剪定で不要となった古い枝は株元から切り捨てて、新しい枝と入れ替えていきます。バラは毎年古い枝を新しい枝と入れ替えていくことが仕立ての基本です。

【ホウキ状になったシュート】

春から初夏に伸びてきたシュートをそのままにしておくと、ホウキ状に枝先に蕾を付けてしまい、成長が止まってしまいます。そこで、シュートが伸びだした早い時期（先端の葉が閉じていて蕾も見えない時期）にシュートの先を指で折り取ります。シュートが１５～２０センチくらいに伸びたころが適当と思います。シュートが柔らかいときに指で折り取ることをソフトピンチといいます。バラの仕立てではソフトピンチが基本です。

ソフトピンチは、シュートの根元から葉の段数を数えて５段目の５枚葉の上でのピンチが基準ですが、葉が閉じているシュートの葉の段数を数えるのも大変ですので、私は大まかにシュートの長さの３分の１から半分でソフトピンチしています。

ソフトピンチをすると、ピンチした先端の芽から勢いの良い次のシュートが伸びます。そのシュートをソフトピンチして、また伸びてきたシュートをソフトピンチして枝をつなげていきます。（詳細は「ばらの手入れ」でご確認ください）

ソフトピンチの位置は、品種によっては深く折り取らないと次に勢いの良いシュートがでないことがありますので、何度かソフトピンチをするうちに品種の特性を見極めます。シュートをつなげて葉の枚数を多くすることで更にベーサルシュートの発生を促します。（注意：つるバラのシュートはピンチをせずに上に伸ばします）

防除についてⅡ

正村　正輝

梅雨入りして６月８日からは８日間も雨の日が続きましたので黒星病の蔓延も心配されます。バラの園芸品種は雨の少ない中近東にあった原種のバラの遺伝子も入っていますので、雨の多い日本では雨に濡れると発生する黒星病に罹って葉を落としてしまいます。

黒星病は、胞子が風で飛んできて葉の上に付着、葉が雨で６時間ほど濡れていると胞子が発芽して葉の内部に侵入し、葉の中で菌糸が広がって１週間くらいで病変が現れます。そのため黒星病を抑え込むには１週間から１０日間隔での防除が必要です。

また、黒星病の定期防除を行っていれば、うどんこ病、べと病も抑えられます。害虫駆除も定期防除に組み込んで行います。

前号に私が使用している農薬名を掲載しましたが、その中から夏の高温期にも使用できる農薬の組み合わせ例と散布液のつくり方を以下に説明します。

■１病害予防剤＋２病害治療剤＋３害虫卓効剤＋４脱皮阻害剤　を混用で使用

３と４は害虫がいなければ混用の必要はないが、ひと月に１回くらいは混用すると害虫の発生を抑制できる。害虫が発生したときは１回の散布で皆殺しにする。生き残った害虫はその農薬に抵抗性が発生している恐れがあるので次の散布は違う系統の農薬を散布する。

１　病害予防剤（葉の表面に付着して病害の感染を防ぐ）
- ① Zボルドー水和剤(800 倍)
- ② ジマンダイセン水和剤（600 倍）
- ③ ジマンダイセンフロアブル（800 倍）
- ④ キノンドーフロアブル（1000 倍）

２　病害治療剤（葉の中に浸透して殺菌する）
- ① サプロール乳剤（1000 倍）
- ② ラリー乳剤（4000 倍）
- ③ サルバトーレＭＥ液剤（3000 倍）
- ④ パンチョＴＦ顆粒水和剤（2000 倍）うどんこ病の卓効剤

３　害虫卓効剤（害虫を１回で殺虫する）
- ① アディオン乳剤（2000 倍）　合成ピレスロイド系
- ② トレボン乳剤（2000 倍）　合成ピレスロイド系
- ③ アファーム乳剤（2000 倍）　アベルメクチン系
- ④ オルトラン水和剤（1000 倍）　有機リン系
- ⑤ ベストガード水溶剤（1000 倍）ネオニコチノイド系

４　脱皮阻害剤（幼虫の脱皮を阻害して殺虫する）
- ① アタブロン乳剤（2000 倍）
- ② マッチ乳剤（3000 倍）
- ③ カスケード乳剤（4000 倍）

【注意】農薬の組み合わせを散布の都度変えてください。
バラに登録されていない農薬もありますので自己責任で散布してください。
農家の農作物へ飛散しないように注意して使用ください。

■展着剤について

私が使用している展着剤は機能性展着剤とパラフィン系展着剤です。

機能性展着剤とは展着剤の機能を進化させた展着剤で、私が使っているのは「アプローチＢＩ」というものです。クチクラ層を傷めることが少ないエステル系の展着剤で、農薬の粒子を細かく分散して葉に浸透しやすくする効果があります。高濃度（1000 倍）で使用しても薬害を起こしません。

パラフィン系の展着剤は「アビオンＥ」です。パラフィン系とは「ろうそく」の原料と同じパラフィンを乳化させて水に溶けるようにしたものです。パラフィンの粒子の隙間に農薬を包んで葉の表面に固着させます。水和剤などの殺菌剤を葉の表面に固着させて雨で流れ難くします。1000 倍に希釈して使用しています。

■農薬の販売店の一例

ＪＡグリーンセンター宇土（宇土市）　熊本県花き園芸農協（国道３号線川尻バイパス）
肥後花市場（南区田井島１丁目）　コメリパワー宇土店　　マツヲ種苗（菊陽町）

■農薬の量のはかり方

① 乳剤やフロアブルは、メスシリンダーなどの目盛りが付いた容器で量ります。
注：使用したメスシリンダーを洗った液も散布液のバケツに入れます。

② 水和剤や顆粒水和剤は、重量なので、台所用秤などで紙コップのような容器に少しずつ水和剤を入れながら重さを量ります。

■農薬の散布液のつくり方

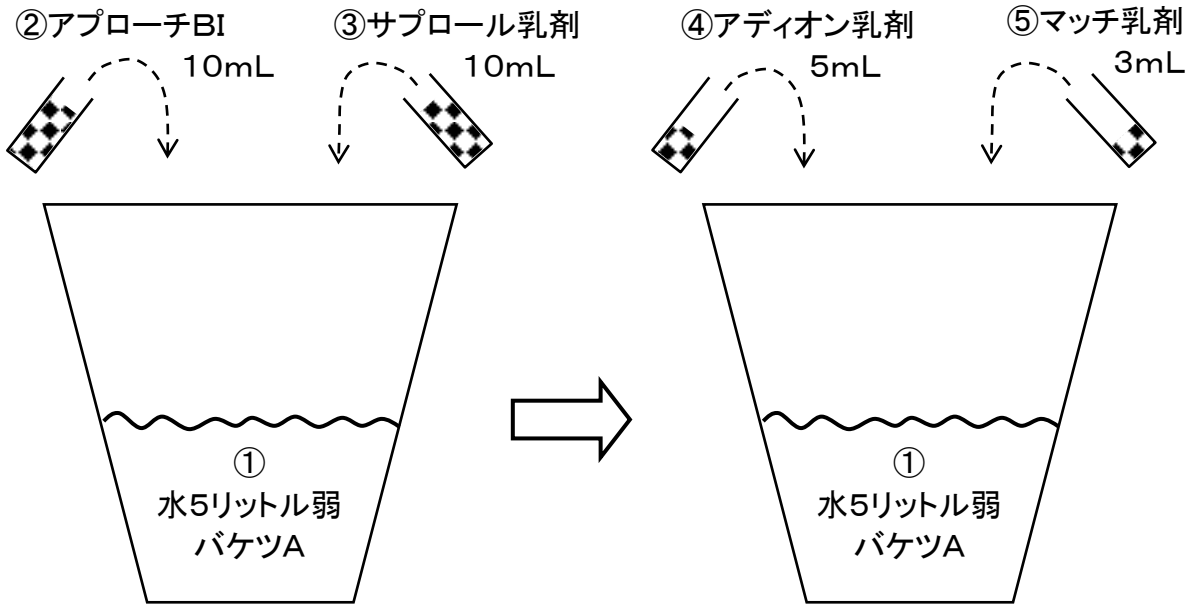
私が行っている散布液のつくり方は以下のとおりです。

散布液を１０リットルつくる場合で説明します。つくられる散布液の量で農薬の量は換算してください。

（１病害予防剤＋２病害治療剤＋３害虫卓効剤＋４脱皮阻害剤の混合散布液の例）

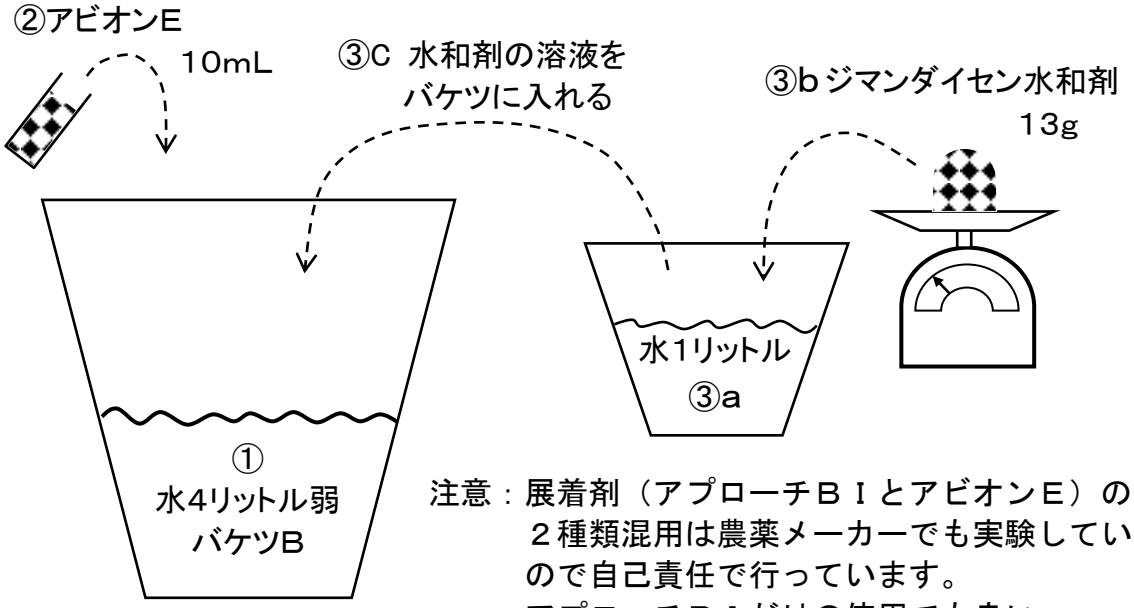
Ａ浸透性のある農薬の希釈液

① １５リットル位のバケツに水５リットル弱を入れる。
② 展着剤（アプローチＢＩ）　　１０ミリリットル入れてかき回す。
③ 病害治療剤（サプロール乳剤）１０ミリリットル入れてかき回す。
④ 害虫卓効剤（アディオン乳剤）５ミリリットル入れてかき回す。
⑤ 脱皮阻害剤（マッチ乳剤）　　３ミリリットル入れてかき回す。



Ｂ病害予防剤の希釈液

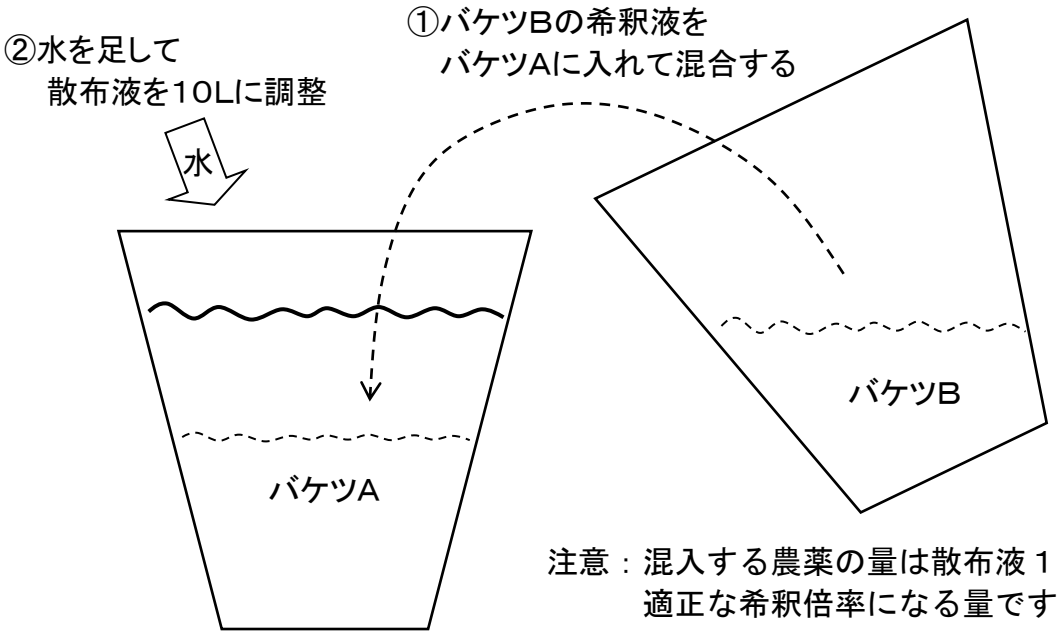
① Ａとは別のバケツに水４リットル弱を入れる。
② 展着剤（アビオンＥ）を１０ミリリットル入れてかき回す。
③ 予防剤（ジマンダイセン水和剤の場合※）
　ａ 小さな容器に１リットル程の水を入れる。
　ｂ ジマンダイセン水和剤を１３グラム入れてかき回して水に溶かす。
　ｃ ｂの液剤をバケツに入れてかき回す。
　※水和剤は重さを秤で計量して少量の水に溶いてから混合しなければならないが、
　　フロアブルだとメスシリンダーなどで計量してそのままバケツに混合できる。



注意：展着剤（アプローチＢＩとアビオンＥ）の
２種類混用は農薬メーカーでも実験していない
ので自己責任で行っています。
アプローチＢＩだけの使用でも良い。

Ｃ散布液の完成

① Ａの希釈液のバケツにＢの希釈液を入れてかき回す。
② 散布液の量が１０リットルになるように足りない水を足してかき回す。



注意：混入する農薬の量は散布液１０Ｌで
適正な希釈倍率になる量です。

月々の手入れ

７月～９月の手入れを簡単にまとめました。
詳細は配布しています「ばらの手入れ」や「ばら教室」でご確認ください。

	７月	８月	９月
庭植え	■シュートピンチ ■定期病害虫防除 病害を防ぐには雨の前に１週間～１０日ごとの定期防除をします。 害虫を見つけたら定期防除に組み込みます。 ■お礼肥 お礼肥がまだの場合は７月上旬までに有機物肥料をマルチングの下の表土に撒くか表土にかるく混ぜます。 牛糞堆肥を1平方メートルあたり10リットルくらいをマルチングを兼ねて撒いてもよい。 ■敷きわら（マルチング） バラの回りの表土に敷きわらをします。 バークや堆肥などでもかまいません。表土を覆うことが重要です。	■シュートピンチ シュートのソフトピンチは8月下旬まで行います。 ８月末には先端の蕾だけを摘み取って成長を止めてもよいです。 ■定期病害虫防除 病害を防ぐには雨の前に１週間～１０日ごとの定期防除をします。 害虫を見つけたら定期防除に組み込みます。 ■かん水 雨が半月も降らなければたっぷりとかん水します。	■秋の剪定 遅咲きから秋花を咲かせる剪定を始めます ９月１０日～１５日頃で、基本はシュートの最上段か1段下の中間あたりの良い芽があるところで剪定します。 ８月下旬にソフトピンチした後に伸びたシュートを９月にピンチして秋の剪定の代わりにしてもよいです。 ■定期病害虫防除 過ごしやすい気温になってくると病害虫も活発になってきます。 １週間～１０日ごとの定期防除を続けます。 秋花をきれいに咲かせるためにスリップスに注意します。
鉢植え	■シュートピンチ ■施肥 緩効性肥料などを毎月鉢土に置きます。4 月～10月まで行います。 ■定期病害虫防除 雨に濡れにくいところに置くと黒星病に罹りにくい。 ■かん水　朝・夕 鉢に受皿をしてかん水で水を溜めます。	■シュートピンチ ■施肥　７月同様 ■定期病害虫防除 ■かん水　朝・夕 天気の良い朝には枝葉にもシャワーを掛けてハダニの発生を抑制します。	■秋の剪定 庭植と同様に行います。 ■施肥　７月同様 ■定期病害虫防除 ■かん水　朝・夕 ７月からの手入れと同様に行います。
繁殖	■挿し木 夏の緑枝の挿し木ができます。	■挿し木の管理 挿し木は明るい日陰で乾燥しないように管理します。	■挿し木の植え替え 挿し木の根が伸びたら下旬にポットに植え替えます。

編 集 後 記

（正村）

令和７年度通常総会の後に右肩の腱板断裂で約２ヶ月間入院しました。

手術後は肩の可動域を広げるリハビリが毎日２回ありましたが、肩に力が入るとリハビリができないので、肩の力を抜くのが難しくて苦労しました。自分の体なのに肩の力を抜くことが難しいのです。これは腱板断裂の経験が無いと分からないかもしれませんね。

退院したからといって元のように腕が動かせるわけではありません。肩の骨に腱を縫い付けてありますが、接ぎ木をしたようなものなので、骨に腱が癒合するには半年くらいはかかるそうです。再断裂しないように重い物は持つことができませんし、今の状態ではつるバラの誘引は無理です。万歳するように腕が上がるようになるまではリハビリを続けていかなければなりません。腱板断裂は命に関わるケガではありませんが、回復までは長くかかるケガですので皆様もお気をつけください。

さて、予定どおり退院できましたのでこの会報を編集することができました。入院中には、春のばら展、福山ツアー、山梨ツアーが開催されました。どれも盛況に終了することができて良かったと思っています。本号に春のばら展の報告とツアーの紀行文を掲載させて頂きました。また、春のばら展とツアーの状況や写真は、LINE 公式アカウントや Facebook 熊本ばら会のグループでも配信しました。５月は何度も配信したために LINE 公式アカウントの月間無料配信数に達してしまい、その後は配信できなくなってしまいました。
Facebook は配信数に制限がありませんので、Facebook 熊本ばら会のグループにもご登録お願いいたします。

LINE 公式アカウントも Facebook 熊本ばら会のグループも非公開ですので登録した会員以外は見ることができません。安心してご登録ください。

LINE

Facebook

ばらだより　通巻２６２号　２０２５年７・８・９月号
発行　熊本ばら会
会長　前田　宜重
事務局　正村　正輝
会報担当　正村　正輝
問合せ用Ｅメールアドレス
info@kumamoto-rose-society.org
熊本ばら会ホームページ
http://rose-society.life.coocan.jp/
会員の部屋パスワード　kuma562025